

静岡県環境影響評価審査会委員からの意見等に対する事業者の見解【第1回審査会後の再意見】
一般国道414号 伊豆縦貫自動車道（伊豆市～河津町）環境影響評価 準備書

No	区分	ページ	意見等	事業者の見解	再意見	事業者の再見解	意見元
7	動物	3-10	意見番号21について、環境影響評価とはやや異なる立場から意見申し上げます。建設予定地周辺でシカ、イノシシが確認されており、これらの大型哺乳類のロードキルが発生した場合には車両及び運転者への深刻なダメージが予想されます。したがって、生息状況調査にシカ、イノシシを加えてください。また、ロードキルの発生について事後調査も必要と考えます。	シカ及びイノシシに関しては、現地調査において多数の確認を記録しております。シカに関しては生態系の項目において予測評価を実施しました。 本事業の対象道路においては、哺乳類等による道路への侵入をできる限り回避する計画であることから、大型哺乳類が道路上を移動してロードキルに遭う可能性もほとんどないと考えております。 なお、事後調査としての実施は予定しておりませんが、道路管理上の点検として、日常的な巡視行為の中でロードキルの発生は確認、対応していくこととなります。	土工部分は全体の20%であるが、この区間の動物の侵入とロードキルの防止を計画してください。 防護柵を設置する経過になっています（説明資料35）が、既往の柵を参考に十分効果のある仕様にしてください。	主な土工部はインターチェンジ付近ですが、それらの周囲には一般的に立入防止柵を設置することが考えられます。ご意見等を踏まえ、本事業の供用前には最新知見及び有識者の助言を得ながら検討していくことを考えております。また、土工部の合間にある橋梁部やカルバート等の計画においては、動物の移動経路として進入防止の役割をはたすことが可能と考えています。	小泉委員
15	河川	5-7-51	5-7-51、5-7-52検討結果に、トンネルから恒常的に湧水が認められる場合とありますが、図5.7.18にある流域への影響が出るのではないのでしょうか。特にトンネル上部の土壌の乾燥やトンネルより上流の細流の沢枯れ等が考えられますが、これらについて触れられず、河川への影響はできるだけ低減出来るというのには少々乱暴な感じが否めません。評価結果の項目も同様です。	準備書p5-7-26湧水比流量分布図（図5.7.11）に示しましたように、現状で水の少ない河川や豊富な水量の河川があります。河川の項目では、河川の流量変化を扱い、事業者の実施可能な範囲で河川への影響を低減することを評価しました。ご意見を踏まえ、記載の仕方については説明を加筆するなど検討いたします。	事業者の見解についてですが、記載の仕方については説明を加筆するなど・・・とありますが、具体的にどのように河川への影響を低減するのかについての説明が無かったと思います。	工事期間中及び供用段階において、トンネルから恒常的に湧水が認められる場合、各トンネル集水範囲に含まれる関係河川における流量減少の影響は、トンネル、切土法面からの湧水を直近の沢に導水することにより、導水した水量分の影響は低減できます。沢の下流側への導水になるため、低減できる範囲は限定されますが、事業者の実行可能な範囲で河川への影響はできる限り低減されると考えられます。	秋山委員
26	動物	5-9-163	オオナガレトビケラは1個体のみ離れた場所で確認されていますので、幼虫は直接影響を及ぼさない可能性が高いですが、他の水生昆虫同様成虫は走光性がありますので、この種に限ったことではありませんが、他の水生昆虫同様に配慮が必要な種と考えられます。	オオナガレトビケラの確認位置が計画路線に近い場合は、道路照明による攪乱の可能性が考えられます。本事業の確認位置は計画路線から約300m離れており、その間は森林域であることから、影響はほとんどないと考えられます。	4/28第1回審査会の説明で、夜間の照明などを河川に拡散しないような工夫をするという説明があったと思います。最近ではLED照明によって昆虫類のライトトラップ効果があまりない波長のものなどがあります。この様な物を使用するというような説明をされてはいかがでしょうか。ほかにも具体的にどのような方策を検討されているのかお聞きしたいです。特に周辺に人工的な光のない部分には照明装置を付けないなどの配慮も検討していただきたい。	道路照明設備の配慮事例としては、道路環境影響評価の技術手法H25・H27（環境保全措置に関する事例集）にまとめられています。また、国土交通省においては、道路照明にLEDを採用しています。LED照明は、昆虫類に対する誘因低減効果があるとされていますが、事業実施段階における最新知見や製品の仕様、有識者の意見等を踏まえ、設置場所や製品の仕様等について検討していきたいと考えています。	秋山委員